

第2回基山町立学校通学区域審議会【要点筆記】

日 時：令和5年1月26日（木）14時00分～14時45分

場 所：基山町役場4階大会議室

参加者：委員：審議会委員（13人）：天本委員、尾石委員、原委員

平野委員、梁井委員、中川委員、鳥飼委員

福山委員、末安委員、高木委員、山本委員

山田委員、熊本委員

欠席：山里委員、中菌委員

教育長：柴田教育長

事務局：今泉課長、長野係長、音成指導主事、水田指導主事

傍聴人：なし

1 開会

長野係長 開会のあいさつ

会長は都合により欠席

2 教育長あいさつ

・基山町の2つの小学校の学校適正化の問題について、取り組む必要があるということでR2年度から通学区域審議会を開催し、小規模特認校制度をR3年度から実施した。

若基小・・・単学級のデメリットとしてクラス替えができない、競争ができない、2クラスあればいろいろできることができない

基山小・・・児童数増加、特別支援学級数増加、教室不足

・小規模特認校制度で若基小に通う児童を増やすための施策として、

（R3）トイレの洋式化、外トイレの改修、NPOいるか放課後補充学習、

（R4）中庭人工芝、コミュニティバス代補助、制服無償化、

コミュニティバスのバス停設置（定住促進課）

・これまでの取り組みや、今後できること、小規模特認校以外（例えば校区の再編）のことについてもご意見をうかがいたい。

3 議事

基山町立学校通学区域審議会規則第3条第4項により、会長の職務代理者として尾石副会長が議長となる。以後は、尾石副会長が議長となる。

・事務局より、水田指導主事が議事（1）、（2）、今泉課長が議事（3）を説明する。

(1) 令和5年度各小学校の入学人数について(資料P1)

- ・基山小・・・114人(通常97人/特別支援学級17人) 3クラス
1クラス38~39人
- ・若基小・・・44人(通常39人/特別支援学級5人/特認校7人) 2クラス
1クラス22人
- ・小規模特認校制度利用者内訳・・・7人
登校・・・コミバス利用予定(5人 基山駅→若基小)
特徴・・・保護者が若基小出身、実家が若基小校区

(2) 今年度実施した小規模特認校に関する施策及び周知活動について(資料P2~7)

- ・特認校制度利用保護者へのアンケート(利用者14 世帯数10)
- ・さらに制度利用者を増やすための施策として、通学方法(スクールバス、コミバスの利便性)、習い事の充実をあげる方が多かった。
- ・年長児保護者へのアンケート(回収数101 基山小91 特認校5 迷っている5)
迷っている5人→全て基山小
- ・ここでも、さらに制度利用者を増やすための施策として、通学方法(スクールバス、コミバスの利便性)、習い事の充実をあげる方が多かった。
- ・自由記載・・・校区の線引きを考えなおしてみてもは。
新たな開発地域が基山小校区に偏っているのでは。
- ・年長児保護者へ配布したちらし及び広報きやま(11月号)

(3) 答申(案)について(資料P8)

- ・R4.8.3付けで諮問への答申
- ・答申内容現状、小規模特認校制度の一定の成果が出ていることを考慮し、引き続き小規模特認校制度の周知等で若基小学校の活性化を図るとともに、学校間での教育格差がないようにする。
- ・付帯意見
(1)今年度同様特色等のPRを進めていく
(2)若基小の空き教室の利用し、特色ある学校づくりを行う
(3)基山小の増築の検討
(4)想定以上の児童数増があった場合は、校区見直しや隣接校制度等を検討する
- ・第1回通学区域審議会要点筆記と特別委員会の報告書について

委員 → 特認校利用者で基山駅からのコミュニティバスの話があったが、駅周辺の子はよいだろうが、10区の子はどうするのか?

事務局 → どの地区からもできるようにしたいが、現時点でできることとして基山駅出発する便で考えている。基山小まではどのお子さんも登校するので、基山駅まで歩いていただいて、そこからはまとまってコミバスを利用して若基小に行くことを考えている。

それ以外のところから通うことも考えられるので、その都度相談にのりたい。

委員 → 現時点では、今の対応でよいと思うが、今後利用者増や状況が変わった場合には、基山駅だけではなく、それ以外からも利用できるように拡充することも考えてほしい。

事務局 → 他の区からの場合、基山駅で乗り換える必要がある。

委員 → 途中で乗ることもできるのであれば問題ない。

委員 → 7区の野口、2区の小松、1区の正応寺辺りの通学時間と通学距離を考えると、コミバスから一步進んで通学バスの検討をする必要があるのでは。特認校だけでなく、子どもの安全を守るためには必要。コミバスを利用すると、巡回の時間や路線などのロスが出てくる。通学バスを考えることはできないのか。

事務局 → 今後、児童数の減少で遠くから1人で通うといった状況もあり得るので、安全面を考慮して通学バスも検討していきたいが、すぐには難しい。

委員 → 施策の一つとして、特認校に通学バスを出すのもいいのでは。

教育長 → コミバスの接続2区でも7区でも利用できるように定住促進課でダイヤ改正を行った。基山小に通う7区の児童についても利用できるように検討している段階である。

委員 → 付帯意見(4)の開発により想定されている児童数は？

事務局 → R8ピークで780人程度と考えている。小学1年生のピークはR4年度であり、今後減少していく予定。それを踏まえて全ての学年4クラスで足りる。開発も同時期ではない、転入世代もばらつきがあると思われる。

委員 → 1世帯辺り、どのくらいの子どもの数が増える見込みをしているのか。

事務局 → 個別に1世帯辺りではなく、今現在200戸ほど新築の住宅が建設中だが、同時期ではなく、ばらつきが多いので、一気に急増することはないと見込んでいる。

委員 → 全校児童数の割合は基山小と若基小で3対1に対して、特別支援学級の児童数は2対1である。認識不足で申し訳ないが、特別支援学級の自閉・情緒とはどういうクラスなのか。

事務局 → 自閉症スペクトラムという診断が出ている児童。特定の物へのこだわりや、感情の起伏が激しい、コミュニケーションの困難さ等がある。

委員 → 不登校の児童数は入っているのか。

事務局 → 数に入っている。

委員 → 不登校はどの程度いるのか？

事務局 → 年間30日以上欠席 両校ともに3～4名程度。

委員 → 資料P3保護者アンケートの⑧に「基山小と若基小の差別化をもっとする」という意見があるが、これを突き詰めていくと基山小の方に悪影響が出るのでは？

事務局 → あくまでも保護者のアイディアの1つ。第1回通学区域審議会で校長先生からあったように教育課程の中で平等におこなっていくので、そこに差はつけられない。とはいえ、空き教室等もあるので、義務教育課程以外の部分で特色をつけるべく、付帯意見にあげている。

教育長 → 基本的にどちらも公立小なので差別化は難しいが、環境が違うので、若基小では隣

の空き教室を利用して広々と図工の工作活動や体験活動ができる、図書室の利用回数も両校できるが、若基小は週4回借りられるのに対して基山小は混雑を避けるために週1回、運動場についてもボール遊びができる等、このような違いはアピールしていきたい。

委員 → 若基小が足りなくなる予測はないのか。もういいです、ということはないのか。

教育長 → 校舎のキャパは各学年5クラスまで対応できるので問題ない。ただし、通常学級が35人以下+特別支援学級となり、1クラスのままで少人数学級が実現できない場合がある。その場合、町費で教員を雇い2クラスにするなどの可能性はある

委員 → 基山出身ではないが、小規模が魅力であると感じて若基小校区に来た。次年度も1年生2クラスになり嬉しく思う。全学年2クラスくらいの規模で収まると適正規模でよいと思う。基山小の教室不足も気になっている。行政区の問題はあると思うが、今後、境目となっている若基小校区に接している基山小校区の区については、「選べる」ようにするとどうか。全区選べるとすると、難しいので、境目の区だけ「選べる」ようになると、一定数若基小に入り、規模の適正化につながるのではないか。

事務局 → 今後出生数は減るので、現状のままで問題はないと思うが、隣接する区については注意深くみていきたい。

4 その他

今泉課長 → 答申(案)にご意見がなければ、この後に議長と相談し、答申として出させていただきます。